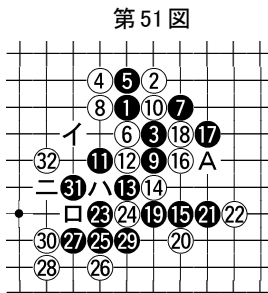


浦月四題目の解明 (6)

九段 河村典彦

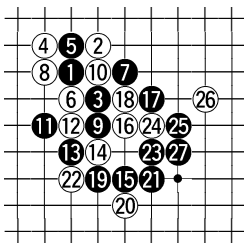
【第51図】前回の続き。白14の変化。この14の防ぎがおそらく最強防であろう。黒は15と下から叩いて次に左右どちらかに展開するの



らA、29があるからだ。黒27からどんどん引き出していけば簡単な勝ちが待っている。黒33からイロハニ。

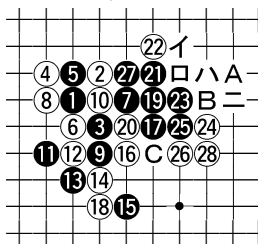
が良い。白16と急所を止められたら、ぐっと我慢して黒17と叩いておくのがかえって勝ちが早い。ここでもどこに防いだらいいか迷う。例えば白18なら黒19から引き出す。黒21と一本逆引きするのがいつもながらの妙手で、白22を待つて黒23、25と打つ。21の効果で、白26の外止めが絶対となっている。中止めな

第52図



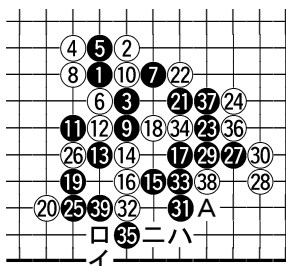
【第52図】白22の変化。白22と反対を止めたなら、黒23から右辺で勝ちを出す。白26を反対は四追いがある。黒27で両ミセ。黒15、17のように三を引かずに二連を叩く手が必勝法では多くなっている。白の防ぎによってどちらに展開するかを決めることができるので、呼

第53図



手は三を引かずに叩く、というのがこれからの常識になるであろう。【第53図】白18は左右を分断して強い防ぎなのだが、今度は右辺だけで勝ちが出てしまう。黒19のトビ三からどんどん引いて行く。呼手は三を引かず、なのだが、一旦決めたらどんな三を引くのも連珠では常識だ。そして黒23と上下をつなぐ含み手がつもの手筋。二連を叩く↓三を引く↓含みを打つという方式が必勝法の手順となっていることが改めてわかるだろう。白24は部分的には強い防ぎなのだが、黒25と両含みを打ち、白26のノリ手防ぎに黒27と打てば黒29からイロハニで収束する。これをイロA Bの四追いはC点が四々禁のため勝てないので要注意。

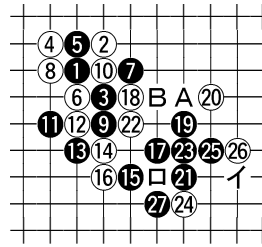
第54図



【第54図】白16の変化。白16でここに防いでおくのも強い。今度黒21と打つても白18に打つてくれないので、攻め方を少し変える。ここは黒17と軽く開くのが良いだろう。これだと白も18と入るしかない。そこで黒19と逆に引き、黒21とミセ手から勝ちを目指す。白22をどこに防いでも、黒23と打てれば勝ちとしたものだ。白24の止めの時の黒勝ちが少々やっかいだが、黒31の含み手が決め手。白32に黒33から35が四

ノビを許さない手で、白36の外止めなら一旦黒37と切ってから黒39を打てばイロハニのノリ切り勝ち。白28を反対はAと飛ぶ。

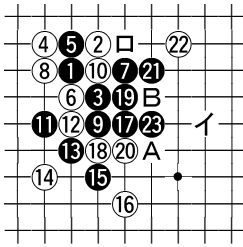
第55図



【第55図】白18の変化。白18と二連を止めておくのも十分強い。しかし、この防ぎには黒19から21と打てるので、盤端までまだ距離があるこの局面ではこの勢力は十分に威力を発揮する。黒23と引き、白24なら黒25は盤端までもうあと2路あるのでかろうじて三である。その後黒27と引けば、以下イロである。ロでできる三も、盤端まで2路あるのでちゃんとした三になっている。白24をA止めなら黒Bと打ち、白の四三を止めながらミせて良い。

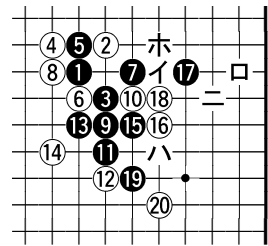
【第56図】白14の変化。この手は明らかに偏っているのですが勝てそうだが、引いて行ってしまうては紛れる。黒15と引いた後、黒17に含むのが絶好手だ。こういう含み手は防ぎづらい。どこかを防いでも、どこかに筋が残ってしまう。白18とがっちり止めても、黒19と引けば白20が絶対となる。黒21、23で以下Aまたはイロ。白18を20も考えられるが、黒Bとミせて、同じく右辺で勝てる。

第56図



【第57図】白10の変化。この10は黒13が気持のいい三引きである。黒15とこちらの急所に先手で打て

第57図

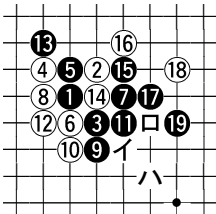


る。白16の防ぎに黒17と飛び出せば、うまく上下がつかぬ。黒21からイロハニホ。白14が反対でも黒15で簡単だし、白12が反対なら、黒14と大きく飛び出して良い。

【第58図】白10の変化。白10のような防ぎなら、すかさず黒11と固まるのが肝要だ。こういう好点は逃してはいけない。この手は白12の三を黒13から取るうという狙いでもある。白14のミセ手にも当然黒15とお尻から取る。黒17が引けるので、白はどちらに止めても容易である。黒19後イロハ。白16を反対でも、黒17と引いて以下容易。

【第59図】白12の変化。防ぎだけなら白12とこちらに引くのもある。この手を利かして白14と止めても黒は15からなおも引いていける。黒17の含み手が当然ながらうまい。白18の止めなら黒19、21と伸びてから黒23と打てば、以下容易。白18で20の止めなら、黒Aと引いて良い。

第58図



第59図

